

## 「測量の日」における功労者及び贈呈理由

今年度は、以下の個人2名、1団体の方々に感謝状を贈呈します。

(五十音順 敬称略)

## 【個人】

## ◆石原 あえか (東京大学大学院総合文化研究科 教授)

石原あえか氏は、長年にわたりゲーテと近代測地学に関する研究に従事されている。氏は、ドイツ・日本にある膨大な原資料の調査・研究を行い、「科学する詩人ゲーテ」(慶應義塾大学出版会, 2010, 第32回サントリー学芸賞受賞)をはじめ、近代測量に新しい解釈を与えた作品である「近代測量史への旅:ゲーテ時代の自然景観図から明治日本の三角測量まで」(法政大学出版局, 2015)や「教養の近代測地学:メフィストのマントをひろげて」(法政大学出版局, 2020)を上梓するとともに、日独両国で多数の講演を行うなど、近代測量に関する文理融合の幅広い普及活動の功績は顕著である。2018年から測量行政懇談会委員を務められ、測量行政にも多大な貢献をした。

## ◆吉川 哲也 (宮崎県立佐土原高等学校 教諭)

宮崎県立佐土原高等学校情報技術部は、防災に関する地理空間情報を活用した防災アプリケーション(SHS 災害.info)を開発し、毎年改良を行っている。当該アプリは平成29・30年度の「防災アプリケーション公募の取組」において2年連続で防災アプリ大賞を受賞し、令和元年度の「Geo アクティビティコンテスト」において防災減災賞を受賞した。

吉川哲也氏は情報技術部の顧問であり、社会貢献にも結びつく生徒の防災アプリケーション開発及び応募の指導を一貫して行ってきた。この取組は、第23回測量行政懇談会地理教育支援検討部会報告書の取りまとめの参考になるとともに、その後の当院の防災・地理教育支援の方向性を決める一助となった。

こうした功績は、防災アプリ開発を通じた防災地理教育のモデルケースを示した観点からも地理空間情報行政への多大な貢献となった。

## 【団体】

## ◆一般社団法人 北海道産学官研究フォーラム (理事長 三上 隆)

北海道産学官研究フォーラムは、平成3年に北海道内の産学官連携基盤強化を目的として設立され今年30周年を迎える。平成10年に北海道GIS・GPS研究会を設立し、北海道内各地で産学官の有識者を集めたGIS普及セミナーを開催、平成26年に産学官CIM・GIS研究会を設立し、土木分野におけるICT活用にも力を注いでいる。平成30年には、主催者の一員として「北海道地理空間フォーラム in 札幌」の開催に尽力された。GIS活用について、様々な分野での講演会を主催するなど、北海道における地理空間情報及びGISの普及・啓発に多大な貢献をした。